

2019年度レーザー機器取扱技術者試験を実施

当協会は、2019年度（第30回）レーザー機器取扱技術者試験を2019年12月11日に東京・芝公園の機械振興会館にて実施した。

レーザー応用機器の普及に伴いレーザー機器の製造、調整、使用等に携わる人が増え、また、レーザー機器の適用の拡大に伴って一般の人にも危険を及ぼすような使用分野も出現してきている。これらの動きを受け、当協会はレーザー機器取扱安全に関する十分な知識を普及・啓発していく事業（例えば「レーザー安全スクール」の開催）を行うとともに、1990年度からレーザー機器取扱者に対する試験制度を発足させた。

この試験の趣旨は、レーザー機器の取扱いに起因する危険および障害を防止するために、レーザー機器の取扱者、安全管理者および安全技術者に必要とされる知識水準を審査し、試験合格者を当協会に登録することで、レーザー機器の取扱いの安全化を促進するとともに、レーザーをはじめとする光産業の健全な発展を支援することにある。

全国からの受験者153名（昨年170名）が集まり、3会場で午前・午後それぞれ2時間ずつの試験が行われた。受験者の内訳は、レーザーに関する総合知識およびレーザー光の危険性と安全法規の知識を有しているかを試験するレーザー安全管理の「第1種選択1」が12名、同じくレーザー安全技術の「第1種選択2」が13名、また、レーザー安全の基礎的知識を備えているかを判定する「第2種」が128名であり、今年はレーザー安全管理者としての知識を問う「第1種選択1」の受験者が増加した。年々増加傾向であった第2種の受験者数は減少したものの、100名を超える数の受験者となっており、レーザー利用機器が増え、それを利用する場面も引き続き拡大していると考えられる。

合否に関しては今後、レーザー機器取扱技術者試験委員会の厳正な採点、審議を経て、2020年2月中旬に合格者発表を行う予定。

